

観世流 緑泉会

観
世
流



能……竹生鳥
能……狐塚
能……百萬法樂之舞

新井麻衣子
野村 万作
墨 敬子

Kanzeryu Noh-Theatre R y o k u s e n k a i



平成27年 第4回例会
12.5 [土] PM 1:00 ~ (開場 12:00)
喜多六平太記念能楽堂

【竹生鳥】龍神／【百萬】狂女百萬：津村禮次郎（撮影：吉越スタジオ）

能

竹生島

蟹女 河井 美紀
辯才天 龍神 新井麻衣子

臣下 殿田 謙吉

從臣 則久 英志
從臣 梅村 昌功

社人 中村 修一

大鼓 柿原 光博 太鼓 梶谷 英樹
小鼓 岡本はる奈 笛 栗林 祐輔

後見 鈴木 啓吾
奥川 恒治

地謡 菅野 貞男 中所 宜夫
杉澤 陽子 觀世 喜正
桑田 貴志 中森 貫太

【休憩二十分】

狂言

狐塚

太郎冠者 野村 万作

主 岡 聡史
次郎冠者 石田 幸雄

道明寺 杉澤 陽子
實盛 キリ 中所 宜夫
井筒 津村禮次郎
融 觀世 喜正

地謡 河井 美紀
坂 真太郎
鈴木 啓吾
桑田 貴志

【休憩十五分】

能

百萬

百萬ノ子 渡邊 瑛将
狂女百萬 墨 敬子

里人 村瀬 提

大鼓 安福 光雄 太鼓 觀世 元伯
小鼓 大山 容子 笛 藤田 次郎

釈迦堂門前ノ者 高野 和憲

後見 桑田 貴志
觀世 喜正

地謡 藤村 答
吉留 敬高 鈴木 啓吾
松山 隆之 津村禮次郎
坂 真太郎 奥川 恒治

附祝言

【終了予定 午後四時半頃】

第4回例会

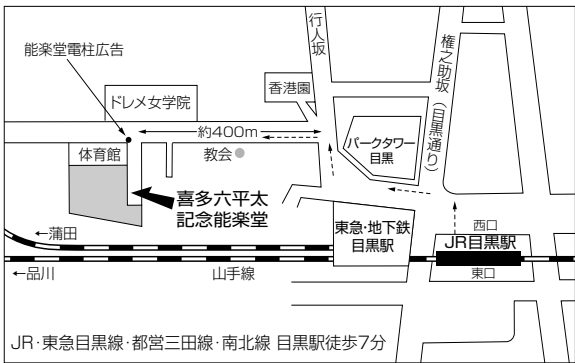
2015. 12. 5 [土] PMI:00 (開場12:00)

喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 品川区上大崎 4-6-9 TEL 03-3491-8813

JR、東急目黒線、地下鉄三田線・南北線の目黒駅西口より徒歩7分。
香港園手前の道を左折し約400m直進、杉野学園体育館手前を左に入る。

※駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮下さい。



●入場料
会員券(年4回)……一般 20,000円 学生 10,000円
1回券(当日券)……一般 6,000円 学生 3,000円

●申込先: 各出演能楽師または緑泉会まで
新井麻衣子 TEL・FAX 0429-46-8389
墨 敬子 TEL・FAX 045-544-6787

〒184-0005 東京都小金井市桜町2-7-18
緑泉会 tel. 042-386-2131 fax. 042-386-2132

能——竹生島(ちくぶしま)

延喜帝(醍醐天皇)の臣下(ウキ)が、竹生島に参詣しようと、琵琶湖にやってくる。そこへ老いた漁師(翁シテ)と若い女(前ツレ)の乗った釣り舟が来たので、便船を請い、湖に浮かぶ竹生島を目指す。春のうららかな景色を眺めるうちに竹生島に着き、老人は臣下を神前へ案内する。女も一緒に来たので、臣下は老人に、竹生島は女人禁制ではないのか、と問いかける。すると二人は、竹生島は女性の辯才天をお祀りしている。その後、女は、自分が人間ではないことを明かして社の御殿に入り、老人は自分が湖の主であると告げ、波間へ消えていく。(中入)

狂言——狐塚(きつねづか)

狐塚の田に群鳥を追いに行かされた太郎冠者。後から来た次郎冠者や、酒を持ってきた主人を、狐が化けて出たと思ひ、縄で縛り、正体を暴こうとする。二人は隙を見て縄を解き、仕返しをするが……。

道明寺(どうみょうじ)：僧の夢の中に現れた白大夫は、舞を舞って御世を祝福し、木樨樹(もくげんじつ)の木の実をふるい落として僧に与えるが、やがてその夢は覚めるのであった。

實盛(じつせい)：白髪(さねり)の老武者姿で現れた斎藤別当實盛の亡霊。木曾義仲と組もうとして手塚太郎に討ち取られた一部始終を物語り、その様を見せるが、僧に回向を頼んで消え失せる。

井筒(いづつ)：僧の夢に現れたのは、在原業平の形見の衣装を身につけた紀有常の娘。昔を懐かしんで舞い、井戸の水に映る自分の男装の姿に、業平の面影を見る。やがて夜明けの鐘の音と共に消えていく。

融(とら)：在りし日の貴人の姿で現れた源融の亡霊。月光に照らされながら舞い遊ぶが、夜明けとともに名残惜しい面影を残して、再び月の都へ戻っていく。

能——百萬(ひやくまん) 法楽之舞(ひやくまん ほうらくのまい)

奈良の西大寺のあたりで幼い子ども(子方)を拾った男(ウキ)は、その子を連れて京都嵯峨清涼寺の大念仏を訪れる。門前の男(間狂言)に、何か面白いものを子どもに見せたいと尋ねると、「百萬」という女物狂いが面白く音頭を取り躍るのだと勧めるので、それを呼び出す。

門前の男が下手な念仏を唱え始めると、それを制するように百萬(シテ)が現れ、自ら念仏の音頭を取りつつ謡い舞い、仏前に向かって我が子との再会を祈る。それを見た幼い子どもが自分の母親だと男に告げたので、男はそれとなく百萬に問いかける。夫に死に別れ、子に生き別れたことを嘆くので、信心すれば子どもと再会出来ると告げると、喜んだ百萬はふたたび奈良から京の都までの道中のこと、清涼寺とその御本尊の釈迦如来像のいわれを曲舞に謡い舞う。しかし、多くの群衆の中におも我が子を捜し出せない嘆きに、仏に手を合わせつつ狂乱する。いたわしく思った男が、幼い子どもを百萬に引き合わせると、百萬はもつと早く名乗ってほしかったと恨み言を述べるが、仏の徳により再会出来たことを喜び、我が子を手連れて奈良の都へと帰って行くのであった。

●次回のご案内……平成28年2月7日(日)

能……絵馬(えま)……………杉澤 陽子
狂言……土筆(どひす)……………山本泰太郎
能……鉢木(はちんぎ)……………鈴木 啓吾